

エコ事業の枠組みと 本コンソーシアム設置の背景 と我々が考えるべき将来

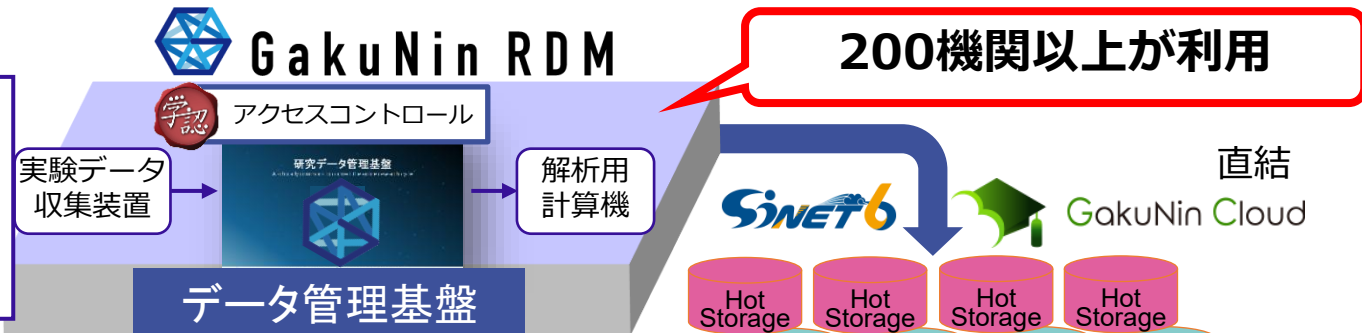
国立情報学研究所
山地一禎

関西地区研究データ管理人材育成コンソーシアム
キックオフシンポジウム
2026年7月16日(木)
於：コンGRESクエア大阪中之島

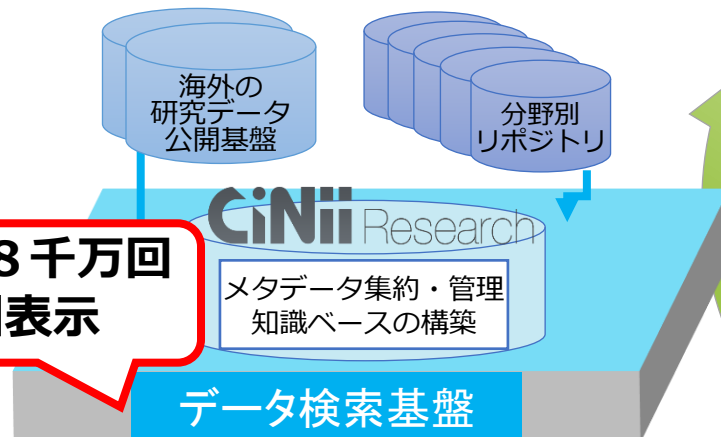
研究データ基盤 : NII Research Data Cloud

2017年から開発開始 ⇒ 2021年から運用開始

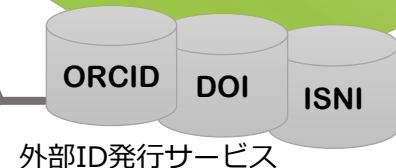
- データ収集装置や解析用計算機とも連携
- 研究遂行中の研究データなどを共同研究者間やラボ内で共有・管理
- 組織が提供するストレージに接続した利用が可能



年間約 8 千万回
詳細表示



- 機関リポジトリ + 分野別リポジトリやデータリポジトリとも連携
- 研究者や機関、研究プロジェクトの情報と関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見プロセスをサポート



- データ管理基盤における簡便な操作で研究成果の公開が可能
- 図書館員やデータキュレータによる、メタデータや公開レベル統計情報などの管理機能の提供

AI等の活用を推進する 研究データエコシステム構築事業（2022～2026年度）

- **全国的研究データ基盤の構築・高度化・実装とデータの利活用**
 - ユーザーニーズを踏まえながら、研究データの管理・蓄積・利活用・流通といった点で適切かつ実用的な機能を確保した全国的な研究データ基盤を整備し、AI活用・データ駆動型研究を推進
 - 構築が進む各機関・各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続
- **研究データ基盤の活用に係る環境の整備**
 - 効率的なAI活用のための、機械可読データの統一化や標準化等を含めたルール・ガイドライン整備、データマネジメント人材育成支援等、ユーザー視点で研究データ基盤を最大限に活用するための環境整備

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

- ・ 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

ルール・ガイドライン整備チーム

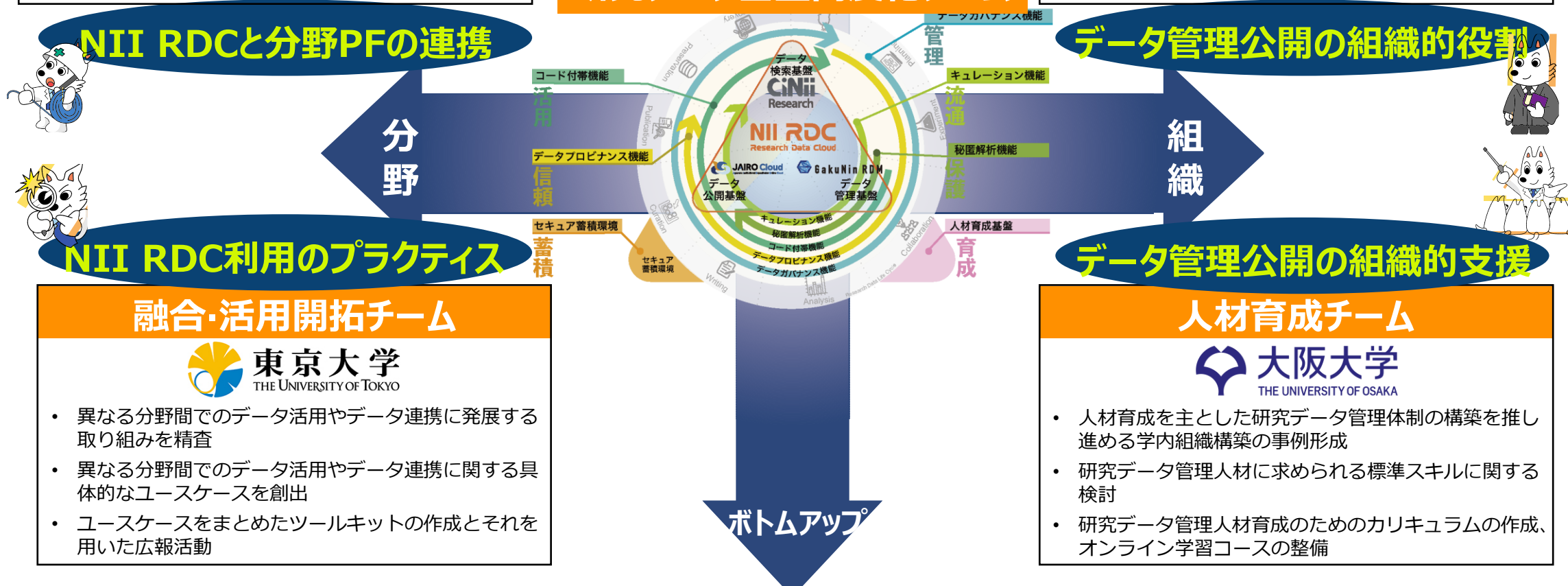


名古屋大学

NAGOYA UNIVERSITY

- ・ 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成

研究データ基盤高度化チーム



NII RDCと分野PFの連携

NII RDC利用のプラクティス

融合・活用開拓チーム



東京大学

THE UNIVERSITY OF TOKYO

- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

人材育成チーム



大阪大学

THE UNIVERSITY OF OSAKA

- ・ 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推進する学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

NII Research Data Cloud 高度化7機能の進捗

コード付帯機能 2023.7～機能提供中

論文・データ・解析コードをパッケージ化し研究成果の再現性を向上。**mdxやHPCとも組み合わせた利用**がAI4S時代の計算機連携基盤へと展開。

2026.9～DMP機能提供予定 データガバナンス機能

DMPに基づくデータ管理を機械的に支援。**ポリシーガイドラインチームと連携**し、機関が不可欠とするデータポリシーに即した管理機能を提供。

データプロビナンス機能 各機能内に順次実装

来歴情報の保存を標準化し、各サービスでの実装を開始。**AI時代に複雑化する研究プロセスの透明性と再現性**の情報を担保。

2026年度AI機能実装 キュレーション機能

AIによるメタデータ自動付与機能の実装へと発展。

2025.3～実証実験中 秘匿解析機能

扱える関数を段階的に増やしながら**実証実験を展開中**。

セキュア蓄積環境 2023.11～試行運用中

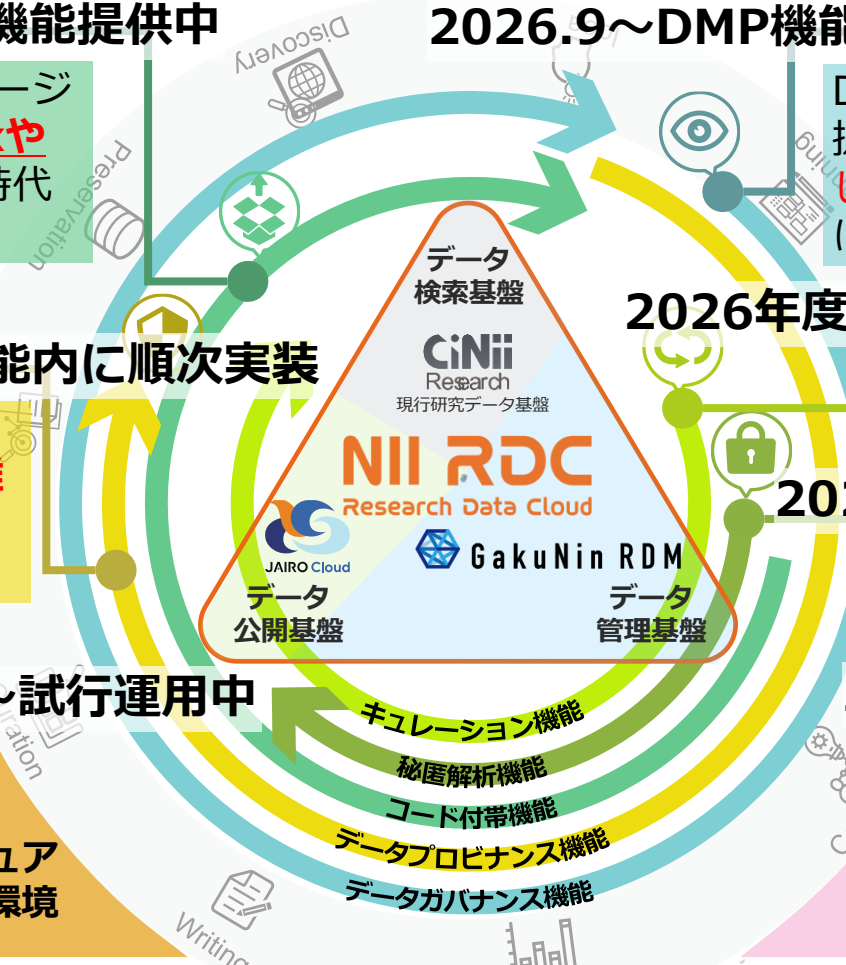
安全・強固なデータ保全環境を提供。機密性の高い情報の**実験的な利用**を開始。

セキュア蓄積環境

2022.12～提供中 人材育成基盤

コンテンツと環境の開発だけでなく、**人材育成チームと連携**し機関の人材を育成中。

人材育成基盤



計画通りの実装が完了。今後は現場のニーズをくみ取りながら、ユーザーの利便性(UX)をさらに改善して研究プロジェクトに不可欠な研究データ管理を全国的・全学的に実践

データガバナンス機能 2026.9～DMP機能提供予定

ルールガイドラインチームと共に機関のデータポリシーに沿って
適切なデータ管理を実践するための機能を整備

例：名古屋大学 研究データ管理・
公開・利活用ガイドライン

「学術データポリシー」に準拠し、学術データの管理・公開・利活用を行うため、研究データ管理責任者は、

2.2 DMPを作成・更新、研究グループで保有すること。

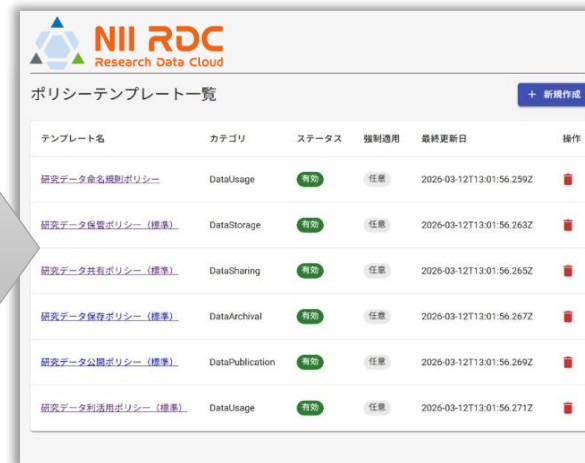
3.2 情報格付けに合わせて研究データの保管場所をDMPに記載すること。

4.1 保存対象データおよびその保存方法をDMPに記載すること。

4.2 研究データの公開可否と方法をDMPに記載すること。

...

事前に機関のポリシー
テンプレートを作成



テンプレート名	カテゴリ	ステータス	強制適用	最終更新日	操作
研究データ命名規則ポリシー	DataUsage	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.259Z	
研究データ保管ポリシー (標準)	DataStorage	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.263Z	
研究データ共有ポリシー (標準)	DataSharing	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.265Z	
研究データ保存ポリシー (標準)	DataArchival	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.267Z	
研究データ公開ポリシー (標準)	DataPublication	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.269Z	
研究データ利活用ポリシー (標準)	DataUsage	有効	任意	2026-03-12T13:01:56.271Z	

機関の研究者がDMPを作成
(FA + 機関の要件を満足)



Step 2: テンプレート選択

テンプレート: 研究データ保存ポリシー (標準)

研究データ保存ポリシー (標準)

カテゴリ: DataArchival

研究データの長期保存および延滞データの保全方法を規定するポリシーテンプレート

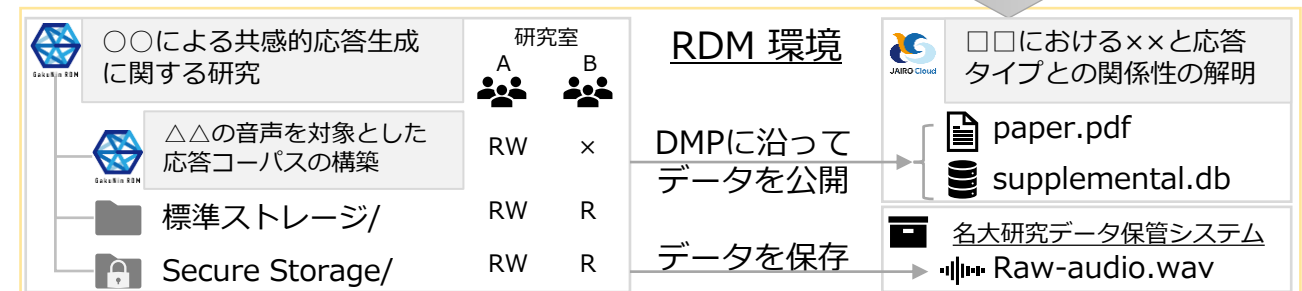
Step 3: 必要な値の入力

特別な配慮を必要としないデジタル形式のデータの保存場所 (obligation / archive)

isNonDigital: false (固定) requiresSpecialHandling: false (固定)

storageMethod

DMPに従いRDM環境を自動構築

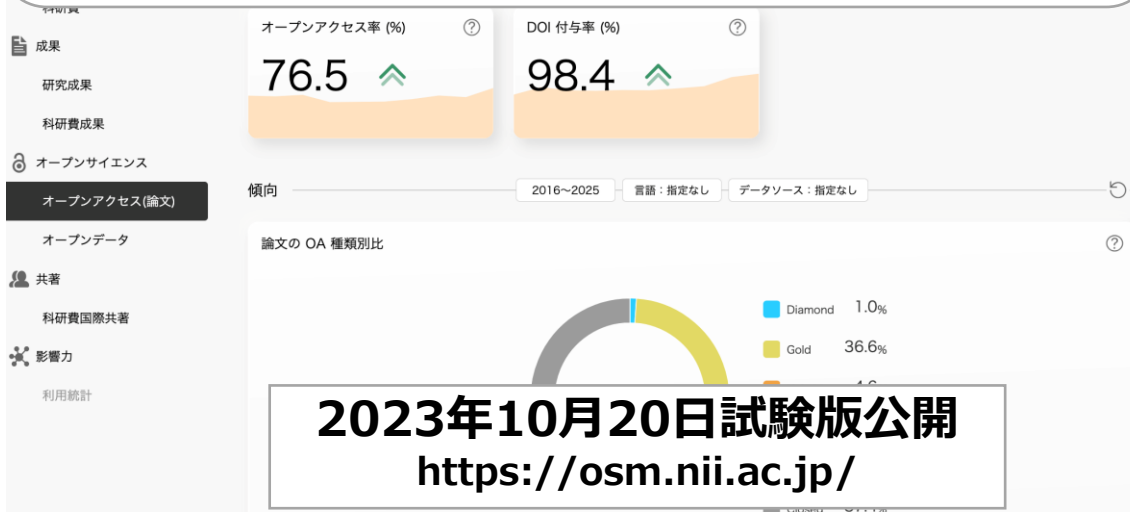


オープンサイエンスモニター (OSM)

研究機関 向け

CiNii Research 機関向けダッシュボード

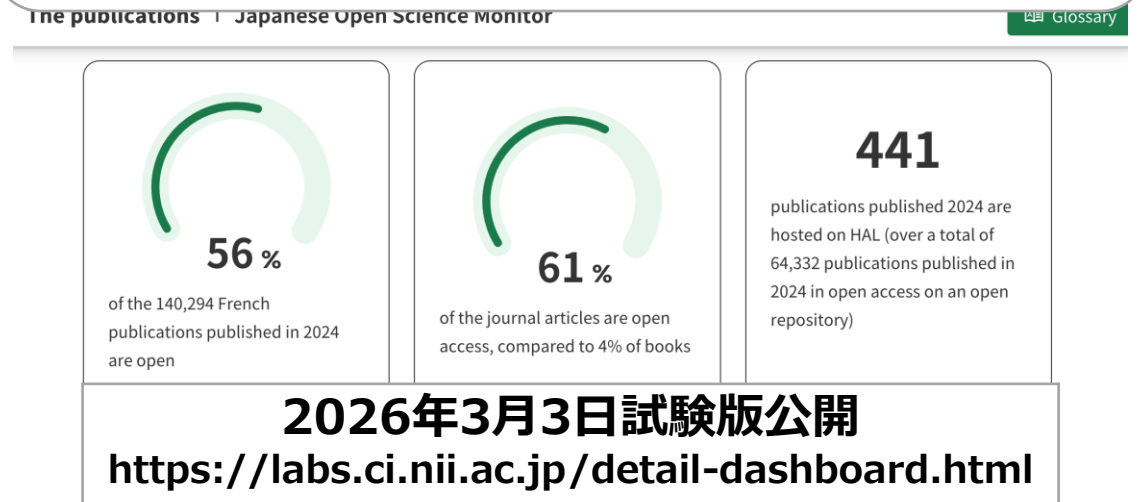
日本の学術論文等を網羅的にカバーするCiNii Researchナレッジグラフに基づき、
研究機関のオープンサイエンスを可視化



政府等 向け

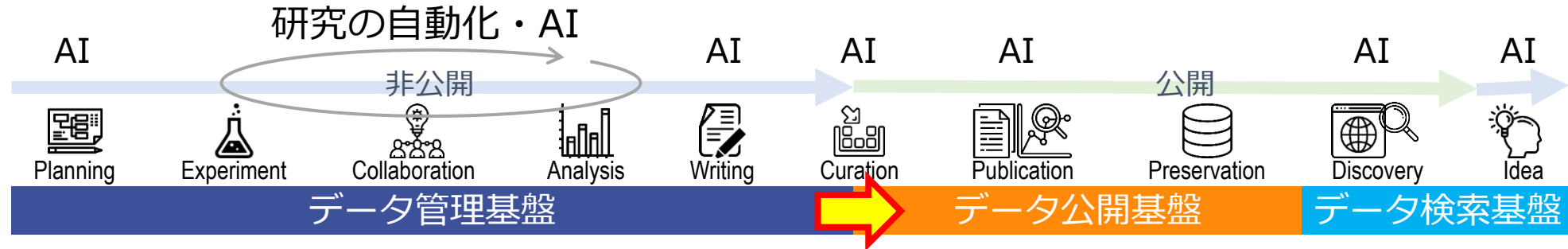
Japan Open Science Monitor

OSMを先導するFrench Open Science Monitorに沿ってOAに関する指標を実装し、
諸外国と比較可能な指標を提供



両者のOSMの比較を行い両者の利点を明らかにする → 日本の研究成果の多様性をOSMへ反映
ユーザコミュニティからの声を提供指標・機能に反映、ユースケースの積み上げ・共有
より効果的・効率的に日本のオープンサイエンス推進を実現するOSMへ展開

オープンサイエンスを支える基盤に向けて



2026年3月18日リリース

OAアシスト機能

GakuNin RDM x JAIRO Cloud連携機能

研究成果の再利用性を高めていく更なる機能群

データガバナンス機能

2026.9～DMP機能提供予定

データプロビナンス機能

2026年度から順次実装

キュレーション機能

2026年度AI機能強化開発

コード付帯機能

2023.7～機能提供中



2026年度以降も段階的なリリースと実証により
機関リポジトリからの再利用性の高い研究成果発信に寄与

全国展開につながるネットワーク／コミュニティを形成

Why?

全国規模の
地域コミュニティ活動



“顔の見える関係”で、ポリシー策定、セミナー開催、調査実施、実践的な研究データ管理等を、互恵的に実施

地域のネットワークが、NII RDCの全国展開・利活用を強化促進

RDM実務担当者数（457機関）

部署	頭数（人）	頭数・平均（人）	FTE・平均（人）
図書館	452	0.99	0.39
研究推進	434	0.95	0.38
情報基盤	160	0.35	0.12
URA	55	0.12	0.04

地域コンソーシアム等への参加機関数
＝のべ102機関（2026年4月現在）

組織間の互恵的連携は必須

（「オープンサイエンスの状況等に関する調査」より抜粋）

2025年度開始

- 北海道地区（北海道大学）
- 東北地区（東北大学）

**2026年度
開始予定**
関東地区

本日開始
関西地区

2023年度開始

- 東海地区（名古屋大学）
- 北陸地区（金沢大学）

2024年度開始

- 中国四国地区（広島大学）
- 九州沖縄地区（九州大学）

各地の地域コンソーシアム

<https://www.nii.ac.jp/creded/start-up.html>

研究データエコシステム北海道コンソーシアム

AI & Research Data Ecosystem Hokkaido Consortium

ホーム ニュース 概要 イベント リンク お問い合わせ 会員登録



研究データエコシステム北海道コンソーシアム設立シンポジウム

国 2025年2月28日

研究データエコシステム北海道コンソーシアム設立シンポジウム

プログラム

- 【セッション1: 研究データ管理】
- ▶ 詳細を見る
- 【セッション2: AI活用への展開】
- ▶ 詳細を見る

アクセス

Googleマップで表示

市営交通・地下鉄南線「北18条駅」下車、市営交通・地下鉄南線「北12条駅」下車、JR札幌駅下車、徒歩20分

主催: 研究データエコシステム北海道コンソーシアム

※本イベントは、北海道大学情報基盤センターの一環として開催します。

情報交換会

日時: 2025年8月28日 (木) 19:00~21:00

会場: ホテルマイステイズ札幌アスペン (札幌) 参加費: 7,000円

参加申込方法: 情報交換会参加申込フォーム

※多数のお申込みをいただいた場合は、早期

北陸研究データ基盤コンソーシアム

利用規則

- コンソーシアム会員
- コンソーシアム入会希望
- イベント参加希望

目的別

- 北陸研究データ基盤コンソーシアムとは
- これまでのイベント
- これからのイベント
- コンソーシアム会員権一覧
- 入会申し込み

北陸研究データ基盤コンソーシアムとは

これまでのイベント
これからのイベント

参考サイト

- 金沢大学学術データ管理 基盤システムARCADE
- 内閣府科学技術・イノベーション政策局「研究DX」ホームページ
- AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
- 研究データ管理スタートアップ 支援事業

名古屋大学の学術データ管理・公開・活用

HOME > 研究データエコシステム 東海コンソーシアム

学外の方へ

研究データエコシステム 東海コンソーシアム

学術機関が相互に連携し協力することで、研究データエコシステムを構築しています。

コンソーシアム会員募集

東海地域を中心に大学や研究所など、当コンソーシアムの趣旨に賛同し共に活動頂ける学術機関を随時募集しています。東海地域でなくてもご入会頂けます。

詳細はこちら

イベントの開催

会員機関による情報交換やノウハウ共有を目的としたセミナーを定期的に開催するほか、他団体と講演会などを開催しています。また、会員機関が主催するイベントを開催しています。

詳細はこちら

全国の地域コンソーシアム

研究データエコシステム構築支援事業における「研究データ管理スタートアップ支援事業」のもと、全国で地域コンソーシアムの活動が進んでいます。

詳細はこちら

研究データエコシステム 中国四国コンソーシアム

ホーム 本コンソーシアムについて イベント 会員組織一覧 会員募集 会員権限定

TOP

研究データエコシステム 中国四国コンソーシアム

学術機関が相互に連携し協力することで、研究データエコシステムの拠点を中国・四国地域に整備し、その普及と利用促進を目的とした活動を行います。

お知らせ

2025/2/13	(2025/3/13) 第2回シンポジウムを開催します
2024/10/31	(2024/11/29) 中国四国コンソーシアム設立シンポジウムを開催します
2024/10/31	本サイトを開設しました

各大学からのお知らせ

2025/2/25	(2025/3/12) 広島大学/オープンアクセス加速化セミナー
2025/2/14	(2025/3/5) 山形県小野田市立山口東京理科大学/オープンアクセス加速化国際シンポジウム

本コンソーシアムについて

本コンソーシアムでは研究データの管理・公開・利活用を支援することを目的として、各機関のルールづくりやそれを支える基盤システムの開発・共同利用を推進します。

詳しくはこちら

コンソーシアム会員機関

中国・四国地域を中心に大学や研究所などの学術機関、あるいは、学術機関に属する部署が入会しています。総会ならびに運営会議での承認、立案により活動を推進します。

詳しくはこちら

イベントの開催

会員機関による情報交換やノウハウ共有を目的としたセミナーを定期的に開催するほか、他団体と講演会などを開催しています。また、会員機関が主催するイベントを開催しています。

詳しくはこちら

コンソーシアム会員募集

中国・四国地域を中心に大学や研究所など、当コンソーシアムの趣旨に賛同し共に活動頂ける学術機関を随時募集しています。中国・四国地域でなくてもご入会頂けます。

詳しくはこちら

会員向けページ (会員限定)

コンソーシアム会員向けに、支援事業の募集要項、イベントのアーカイブ、コンソーシアム活動成果、などの会員限定コンテンツを掲載しています。

詳しくはこちら

各地域コンソーシアムの特徴

- **北海道地区：コミュニティ内でのナレッジ共有**
 - シンポジウム・セミナー・勉強会を通じて、地域全体にRDMの認知と理解を広げることに注力し、機運を醸成
- **東北地区：国際連携・標準化志向**
 - 海外研修（豪州派遣）や国際会議参加を通じて先進事例を吸収しつつ、「地域横断で共通化・標準化を進める」ことを重視
- **北陸地区：全学運用モデル実装**
 - DMP支援・データ公開・リポジトリ登録等を一元化した「金沢大学モデル（OSS）」を実装し、研究データ管理を大学運営レベルで制度化・実務化
- **東海地区：実践支援・横展開**
 - 40機関規模の大規模コンソーシアムを背景に、ポリシー策定、ガイドライン整備、即時OA対応、調査分析、講師派遣など、個別機関への伴走支援を体系的に実施
- **中国四国地区：実践ツール活用・ハンズオン**
 - GakuNin RDM や Intellectra を活用した研修・ハンズオンを中心に、実際のツール利用を通じた実践力向上を重視
- **九州沖縄地区：人的ネットワーク・人材育成強化**
 - KOOUを軸に、URA・研究推進部門・図書館など多職種連携を進めながら、地域内の人的ネットワーク形成を重視

地域コンソーシアムの活動支援のこれから

活動の背景

データポリシー

- データ主権
- 研究セキュリティ
- 安全保障、輸出管理

即時OAを含む

オープンサイエンス

- オープンアクセスの実践
- エビデンスデータ対応
- 機関&研究者へのインセンティブ提供

1. コミュニティの発足、参加機関の拡大
2. 課題の共通化
 - どのような基準で支援していくか？
3. URAコミュニティの育成
 - 実践と研究推進、研究力評価への反映は？
4. ...

大学DXの
重要要素

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業 のこれまでの成果からみる今後の展開

地域コンソーシアムとの継続的な活動

1. 研究者と機関が協調した研究データポリシーの実践 (ルール・ガイドライン)

機関のデータポリシー

データガバナンス機能



- 研究セキュリティ、安全保障、輸出管理への対応
- 再現性の高い研究成果発信 ➡ 再利用性の向上 ➡ インセンティブ向上

2. OS, 即時OA, RDM時代に必要となる人材育成 (人材育成)

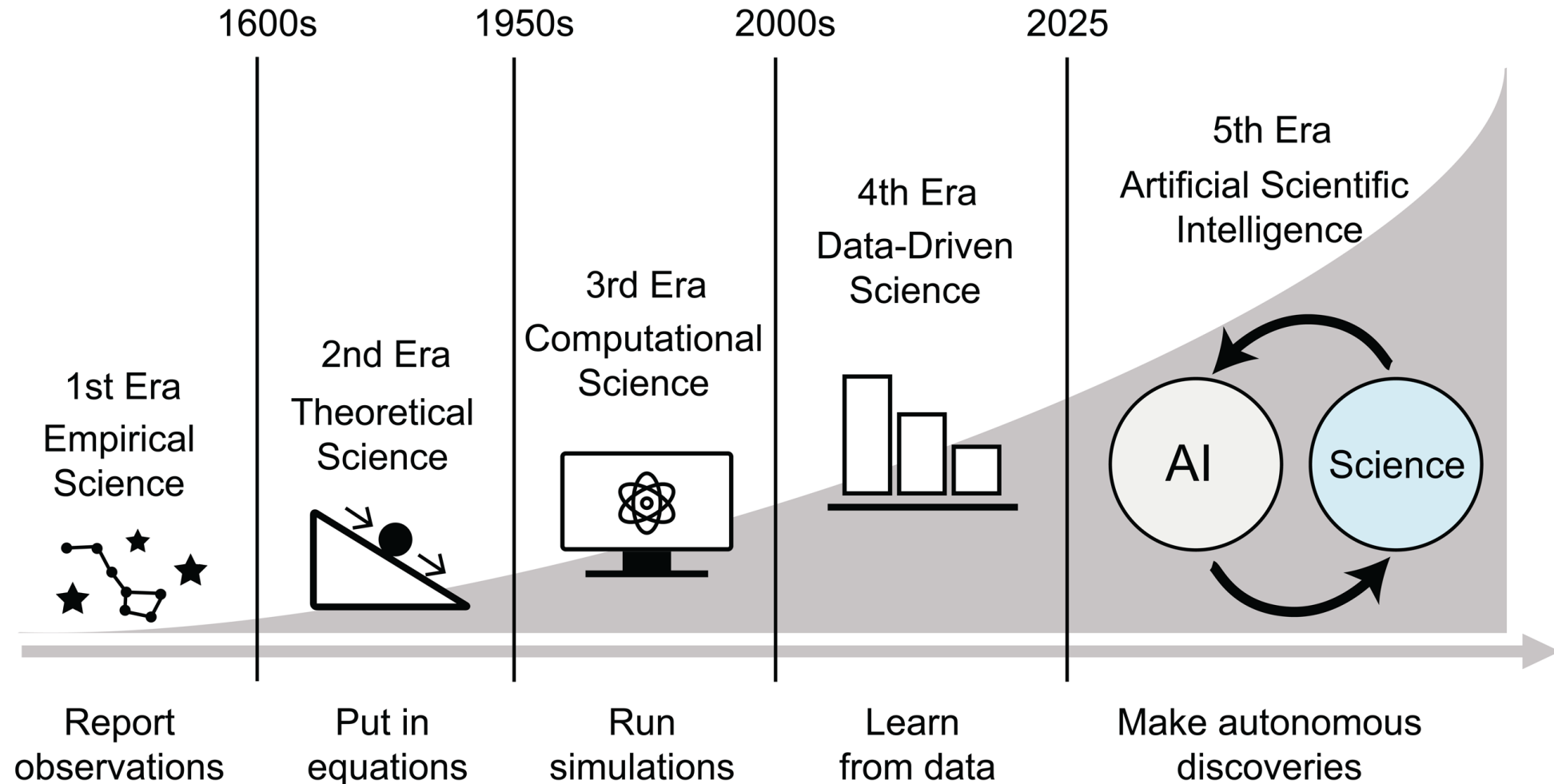
人材育成基盤

FD & 若手研究者の育成



AI による変化への対応

第5の科学の時代

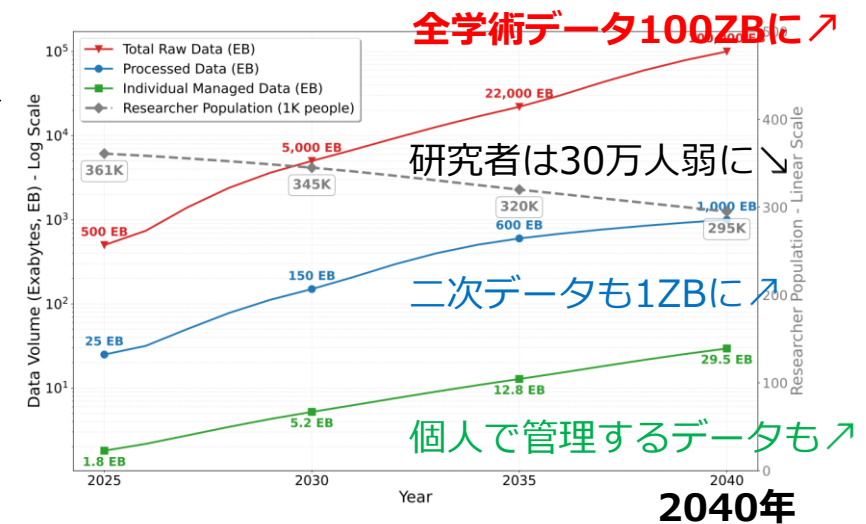


Miolane N (2025) The fifth era of science: Artificial scientific intelligence. PLoS Biol 23(6): e3003230. <https://doi.org/10.1371/journal.pbio.3003230>

AI時代における研究資源

- 日本の学術分野で「人的リソースの収縮」と「デジタル知識の爆発」が同時並行で進む
 - AIの燃料と言われるデータの**管理・処理コストが増大**
 - 全実験データ（一次データ）の共有は不可能、前処理（二次データ）し、活用する仕組みが必要
- 日本の研究データ管理の取り組み
 - GakuNin RDMだけでは、生成AI時代の急増する二次データの管理対応に難
 - 一部組織／研究領域で独自にデータ管理されているが、組織間や計算資源との連携不十分で活用できていない

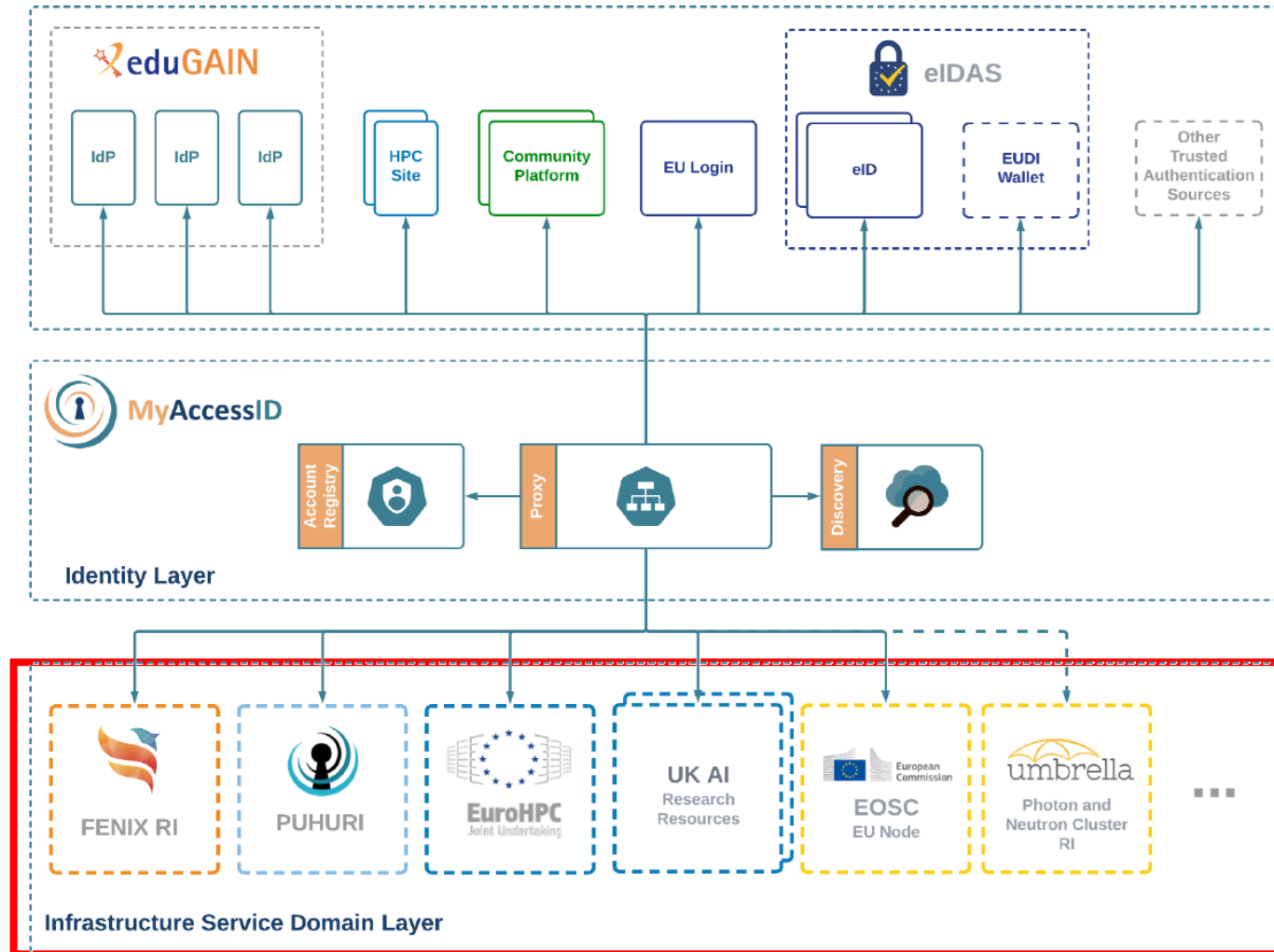
学術データ量と総研究者数の推移



*IDC/Seagateレポート, SINET報告, 総務省情報通信白書からGeminiが試算

HPCI（計算資源），実験観測施設等と連携可能な
データの収集・蓄積・解析機能の必要性

欧州（EOSC）におけるサービスフェデレーション層



認証機能層

多様な認証基盤に対応し、欧州の全ての研究者が利用できる環境を提供。

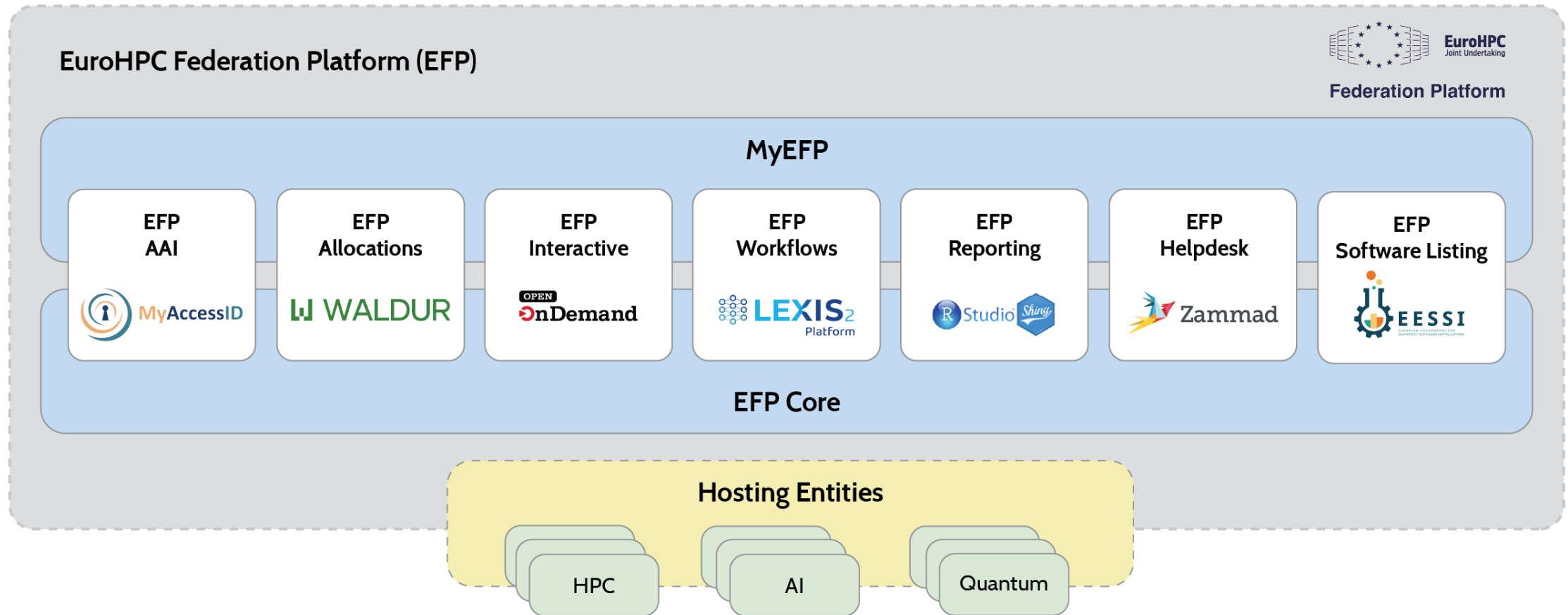
統一ID層

多様な認証基盤からの認証要求を吸収するとともに、統一IDを提供。

サービス層 **日本はどうすべきか？**

欧州における広範囲な研究基盤が利用できるように対象サービスを拡充。

EuroHPC Federation Platform



EOSC EU Node

The screenshot displays the EOSC EU Node user interface. At the top left is the European Commission logo. The top right navigation bar includes a notification bell, 'Support', 'Default Personal Project', and the user profile 'Kazutsuna Yamaji Investigator (AP-B)'. The left sidebar contains a menu with 'EOSC EU Node', 'Overview' (selected), 'Resource Hub', 'Tools Hub', and a 'SERVICES' section listing 'File Sync & Share', 'Interactive Notebooks', 'Large File Transfer', 'Cloud Container Platform', 'Virtual Machines', 'Bulk Data Transfer', and 'Other Services'. At the bottom left of the sidebar, a status bar shows 'Credits remaining 2000 / 2000' and '80 days until next refresh'. The main content area features a large 'Hello Kazutsuna Yamaji' greeting, a welcome message 'This is the overview of your EOSC EU Node account.', and a green confirmation banner 'Welcome to the EOSC EU Node!'. Below this, six service tiles are arranged in a 2x3 grid, each showing an icon, service name, availability, access status, and a 'View Service' link.

European Commission

EOSC EU Node

Overview

Resource Hub

Tools Hub

SERVICES

File Sync & Share

Interactive Notebooks

Large File Transfer

Cloud Container Platform

Virtual Machines

Bulk Data Transfer

Other Services

Credits remaining 2000 / 2000

80 days until next refresh

Support

Default Personal Project

Kazutsuna Yamaji Investigator (AP-B)

Hello Kazutsuna Yamaji

This is the overview of your EOSC EU Node account.

✓ Welcome to the EOSC EU Node!

File Sync and Share

- Available: 1 (Small)

You have access to this service

[View Service >](#)

Interactive Notebooks

- Available: 1 (Small), 1 (Medium), 1 (Large)

You have access to this service

[View Service >](#)

Large File Transfer

- Available: 1 (Standard)

You have access to this service

[View Service >](#)

Virtual Machines

- Available: 1 (Small), 1 (Medium), 1 (Large)

You have access to this service

[View Service >](#)

Cloud Container Platform

- Available: 1 (Small), 1 (Medium), 1 (Large)

You have access to this service

[View Service >](#)

Bulk Data Transfer

You have access to this service

[View Service >](#)

AI4EOSC Dashboard

AI4 | eosoc

Dashboard

Statistics

Catalog

Modules

Tools

LLMs

Tasks

Try me

Deployments

Batch training

Inference

Platform Services

Storage

Experiment tracking

AI Inference workflows

LLM Chat

The AI4EOSC dashboard is a service provided by CSIC, co-funded by [AI4EOSC](#)



Modules

AI4EOSC

External catalogs: AI4Life

Search

Additional filters ⁰

Sort:

By name

By most recent

46 result(s) found

Libraries

Tasks

Platform Categories

Data Types

Tags

Add filter

2D semantic segmentation

2D semantic segmentation trained on the Vaihingen dataset

2D semantic segmentation multilabels with Unet

Semantic segmentation with Unet Deep Learning model applied to segment Cercospora Leaf Spot.

ai4os-demo-app

A toy application for demo and testing purposes. We just implement dummy inference/training, ie. we return the same inputs we are fed. The module does not contain any AI code.

Apple tree blossom image segmentation

We suggest a 2D image segmentation model based on UNET algorithm to segment images with blossoming apple tree

Artistic Style Transfer

A module to apply artistic style transfer using Pytorch.

audio_vessel_classifier

Classifies the distance to the nearest vessel from a 10-second underwater audio recording using a deep learning model

Bird sound classifier

Classify audio files among bird species from the Xenocanto dataset.

Body pose detection

Detect body poses in images.

Chest x-ray image classifier

Classify chest x-ray images in pathological and non pathological with this X-ray classifier.

Cold coral segmentation

Cold corals segmentation model

Conus species classifier

Classify conus images among 70 species.

DEEP OC Massive Online Data Streams

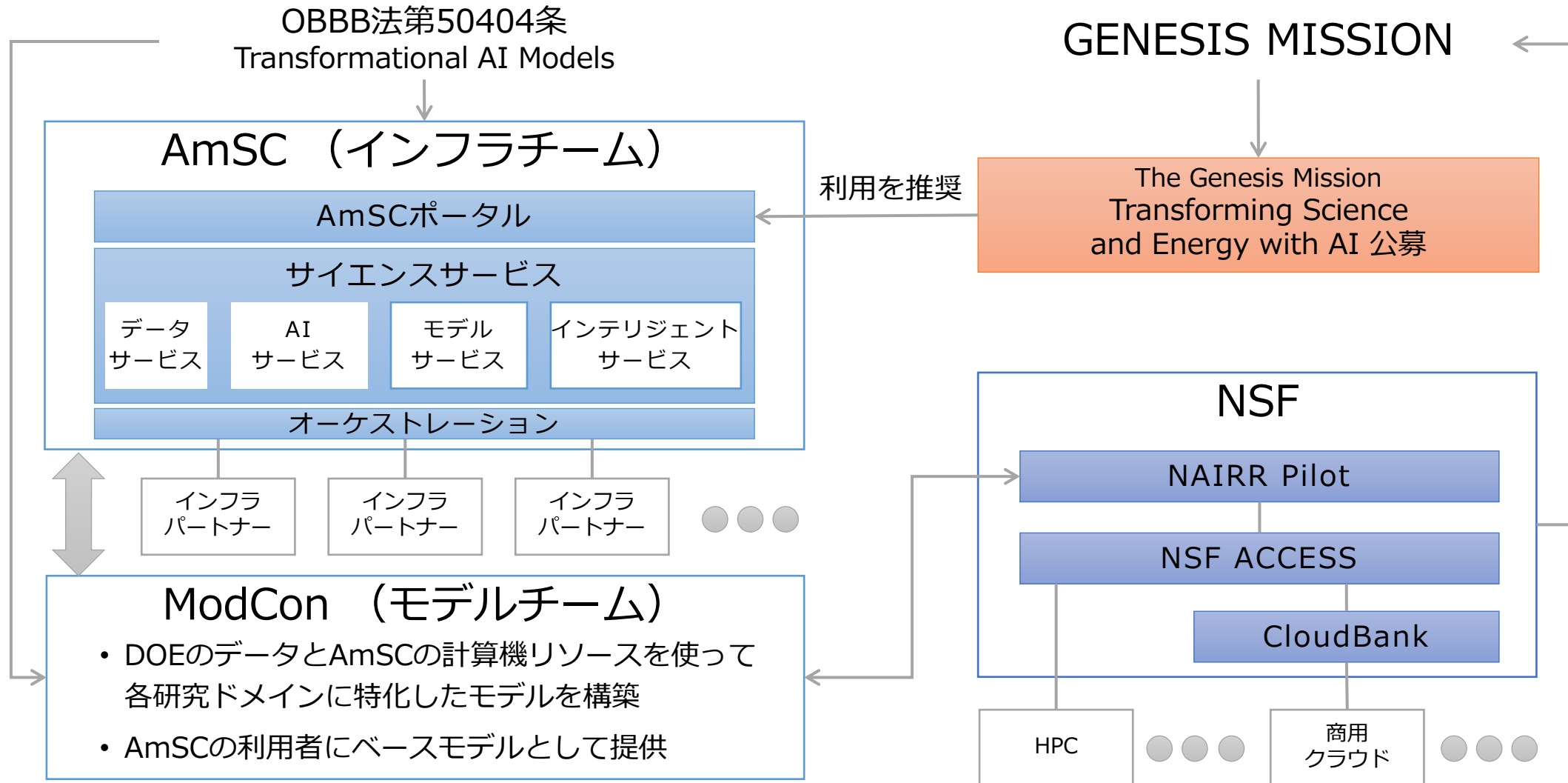
Deep Species Detection

Deep Sea Species Detection

Diatom classification at the species level

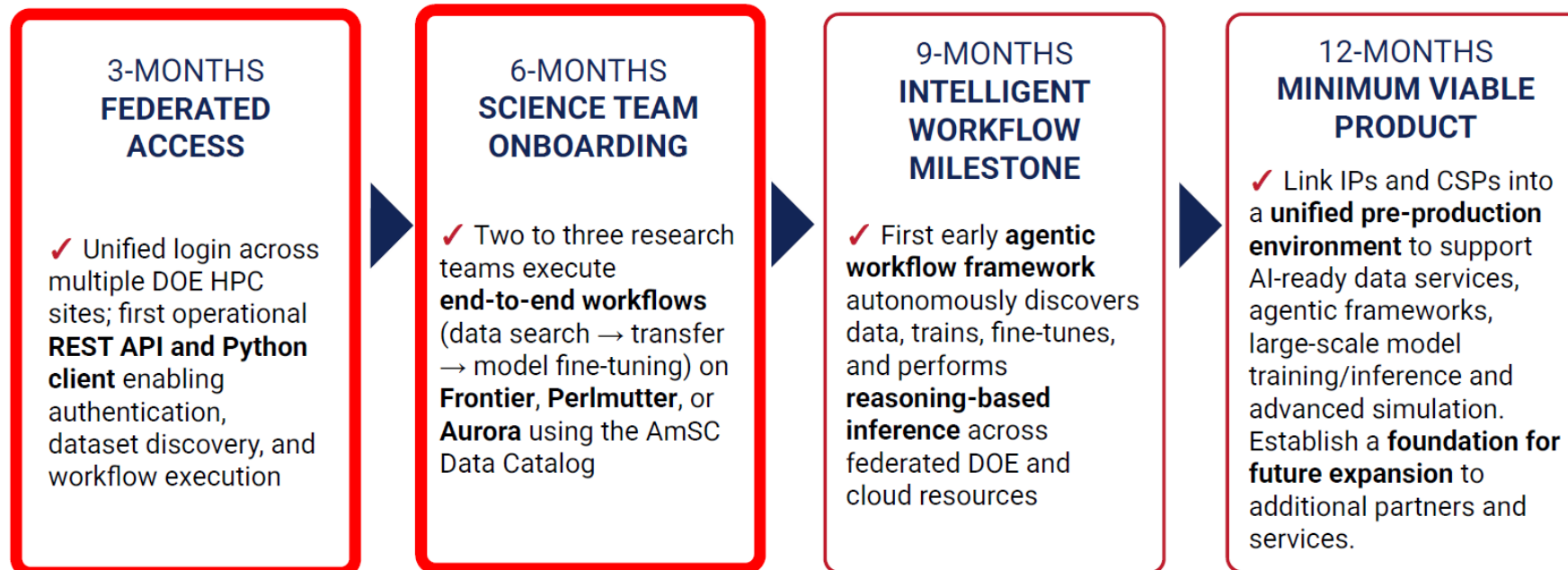
Diatom detection with oriented bounding boxes

The AMERICAN SCIENCE CLOUD (AmSC)



AmSC マイルストーン

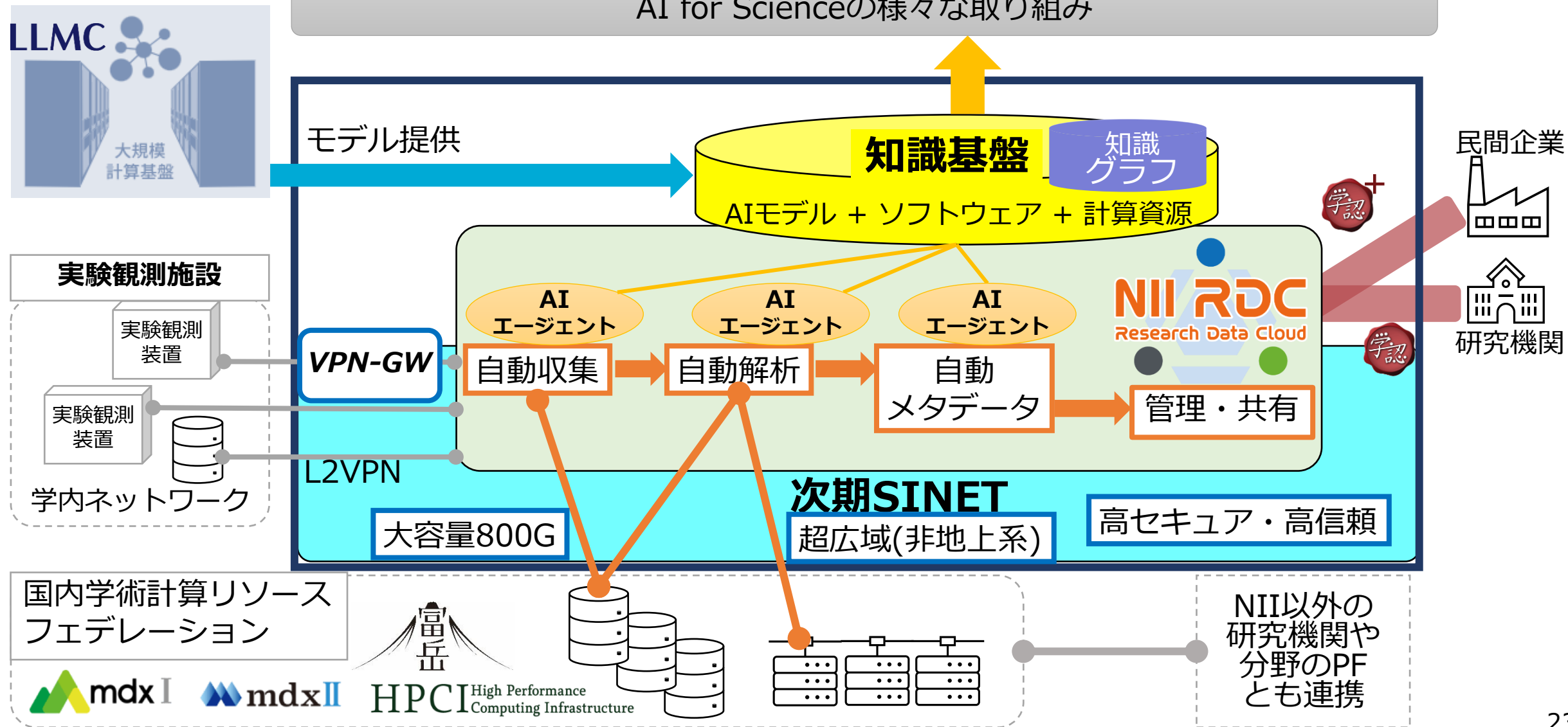
- 第一の目標（3か月）として、DOEのHPC間でのID連携を実現。APIを介してソフトウェアがデータセットの検索やワークフローを実行できる環境を実装
- 第二の目標（6か月）として、いくつかの研究チームが、AmSCデータカタログと指定するスパコンを使って、データ検索、データ転送、モデルのファインチューニングを実行
- 1年後には、将来の発展的な拡大に向けて、最低限の基盤連携のもとでAIを活用した一連の研究が実施できるAmSCの試行運用を開始



学術研究プラットフォームの将来像

AI for Scienceを支える研究データの管理・利活用と流通の在り方ワーキンググループ(第1回) <令和7年12月24日> 資料より

AI for Scienceの様々な取り組み



人材育成として、
何ができる人材を育成するのか？